

1. 件名：特定兼用キャスクの設計の型式証明等に係る審査会合への対応について（日立造船株式会社：Hitz-B69 型）

2. 日時：令和5年5月11日 12:25～12:35

3. 場所：原子力規制庁 9階A会議室（TV会議システムを利用）

4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

戸ヶ崎安全規制調整官、寺野管理官補佐、松野上席安全審査官、櫻井安全審査官

日立造船株式会社：

脱炭素化事業本部プロセス機器ビジネスユニット原子力機器事業推進

室長 他7名※

5. 要旨

(1) 日立造船株式会社（以下「日立造船」という。）から、本日の審査会合（第25回特定兼用キャスクの設計の型式証明等に係る審査会合）において、議論された以下の事項についての確認があった。

- 申請書添付書類の記載の変更点のうち、密封シール部の設計基準値を変更した理由を具体的に記載すること。
- 表計算ソフト使用における誤りや合理化のための判断基準値等の見直しなど申請書の記載の変更点が多いため、社内の申請書の確認体制や不適合対応に係る具体的内容を説明すること。
- 「バスケットは臨界防止上有意な変形が生じないよう設計する」ことについて、バスケットの基準値としてコンパートメント（Sy、Su）及びサポートメント（fc）の設定の考え方を具体的に記載すること。
- 津波による荷重条件の設定の考え方について、先行型式との考え方や手法等に相違点があればその点を明確にした上で、兼用キャスク審査ガイドの確認事項である「兼用キャスクにおいて保守的な荷重の作用及び組合せを設定していること」を具体的に説明すること。

(2) 原子力規制庁は、上記の確認事項に関する説明資料の作成を依頼するとともに、本日の審査会合における議論を踏まえ、引き続き確認を行うことを伝えた。

(3) 日立造船より、本日の議論を踏まえた説明資料の作成等について、了解した旨、回答があった。

6. その他

提出資料なし

以上